

# BUDŌ NEWS

## 今月のニュース

日本古武道協会設立45周年記念  
第47回日本古武道演武大会



日本古武道協会設立45周年記念  
第47回日本古武道演武大会



# 35 流派が演武 伝統の技で節目の年を祝う

小雨降る寒空の下、熱心な古武道愛好者や出場流派関係者、海外の武道ファンなどが続々と会場を訪れ、日本古武道演武大会にコロナ禍前にぎわいが戻りつつあった。

午前10時30分、片岡正徳日本武道館事務次長の開会宣言で大会は幕を開けた。国歌斉唱の後、高村正彦日本武道館会長・日本古武道協会会長が主催者挨拶を述べた。

「日本の古武道は、現代武道の源流をなすものであります。演武者の皆様方が、全国各地でそれぞれの流派の保存・継承・発展のために日夜ご努力されていることに、心から感謝申し上げます。

日本古武道協会設立45周年記念第47回日本古武道演武大会が2月4日、日本武道館で開催された。コロナ禍前と同様の入場制限などを設けない開催方法で実施され、会場には1500名以上の観客が詰めかけた。

大会には、日本各地に根差した古武道流派35団体が出場し、連続と受け継がれてきた伝統の技を存分に披露した。

日本古武道協会設立45周年記念  
第47回 日本古武道演武大会







内田 康介  
日本古武道協会理事・事務局長



川端 達夫  
日本武道館理事長、日本古武道協会理事長



高村 正彦  
日本武道館会長、日本古武道協会会長

令和の時代は、温故知新のことわざの通り、古武道が、ますます日本の誇るべき伝統文化として広く国民に注目され、評価され、尊敬される時代になりたいと考えております」

続けて、川端達夫日本武道館理事長・日本古武道協会理事長が大会委員長挨拶を述べた。

「本日、コロナ禍を乗り越え、多くのお客様をお迎えし、また、例年通り35流派の出場が叶い、大会を開催できましたこと、誠にありがとうございます。」

演武者の皆様方には、日頃から鍛錬されている古武道の技と心を遺憾なく発揮され、会場にお越しの皆様方に、そして、ネット配信を通して、日本はもとより世界で古武道の神髄をご堪能していただけることと期待しております」

開会式に続いて、古武道功労者表彰式が行われた。令和5年度は、長沼悟詮・溝口派一刀流剣術代表、増本孝和・円心流居合据物斬剣法五世宗家の2名が受章し、表彰式では高村会長から表彰状が授与された。

※128〜129ページに古武道功労章受章者の喜びの声を掲載。



(左から) 増本孝和五世宗家、高村正彦会長、長沼悟詮代表



# 演武（第一部）

演武は2部構成で行われ、各流派は8分の持ち時間の中で演武を披露した。

第一部では、演武始めとして、令和5年度文化庁長官表彰を受けた小笠原流弓馬術による百々もも手式が披露された。この儀式は、祈願・請願に際して行われるもので、古武道協会設立45周年を祝い、同協会のますますの隆盛、コロナウイルス感染拡大の早期終息を祈願して行われた。

続いて、古武道功労章を受章した長沼氏が代表を務める溝口派一刀流

剣術の演武が行われた。長沼氏の袈裟斬りが淀みなく繰り出され、その優美な動きに観客は魅了された。

19年ぶりの出場となった野太刀自頭流剣術は、紐ひもで括くくられた枝を木刀で連打する「続け打ち」を披露。木刀を振る演武者の顔がみるみる紅潮する様子から、鬼気迫る気合が会場中に伝わった。

第一部最後の演武は、根岸流手裏剣術。演武者の手中から鋭く放たれた手裏剣が、畳に勢いよく突き刺さると、観客は感嘆の声をあげた。



澁川一流柔術



竹生島流棒術



兵法二天一流剣術



溝口派一刀流剣術







天真正伝香取神道流剣術



野太刀自顕流剣術

いにしえ  
古より伝わる  
奥義を披露



根岸流手裏剣術



沖縄剛柔流武術



関口新心流柔術



佐分利流槍術



肥後古流長刀



心形刀流剣術



竹内流柔術 腰廻小具足



鞍馬流剣術



小笠原流弓馬術





初實剣理方一流甲冑拔刀術



示現流兵法剣術



諸賞流和

## 演武者名簿 (第一部)

### ▼小笠原流弓馬術

小笠原清忠、小笠原清基、松本和正、田丸達夫、佐藤昌二、玉川智、飯島陽一、安達歩、宇田川照子、星野真理子、鎌形雅子

### ▼溝口派一刀流剣術

長沼悟詮、星充

### ▼澁川一流柔術

森本邦生、内住信之、堂元慎介、鈴木厚史、松田淳至、鈴木亨昇、原田淑子

### ▼兵法二天一流剣術

加治屋孝則、月森慎悟、磯部健一

### ▼竹生島流棒術

松浦寛澄、松浦利英、橋口秀雄、栗山晃、迎俊明、岩永雅彦、石川裕章、ミヒヤエル・ラインハート

### ▼野太刀自顕流剣術

松尾壽也、伊東丞士、柚木盛吾、秋窪大、川上久志

### ▼沖繩剛柔流武術

東恩納盛男、上原米和、蔵元雅一、米里吉則

### ▼天真正伝香取神道流剣術

荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也

### ▼佐分利流槍術

川瀬一道、前原一教、北村賢一

### ▼関口新心流柔術

関口芳夫、山中聡、関口正太郎、北口隆、福岡雅己、関口一之心

### ▼心形刀流剣術

小林強、加藤尚大、原謙一、今西貴久、伊東大輔、野仲治行、振角卓哉

### ▼肥後古流長刀

平田真由美、廣田直人、島永陸夫、坂口貴子、上田シズ子、松村好幸

### ▼鞍馬流剣術

柴田章雄、渡辺良雄、吉田櫛寛、松井康一

### ▼竹内流柔術 腰廻小具足

竹内秀将、竹内勢至、竹内智隆

### ▼初實剣理方一流甲冑拔刀術

神崎勝、坂本圭、神崎勝馬、山本

寿之

### ▼示現流兵法剣術

東郷重賢、坂口俊太郎、アレキサンダーブラッドショー、高橋幸司、藤村亨、築地克秀、徳永重臣、デュルソアンリ、松窪光裕、白坂耕一、有村博康

### ▼諸賞流和

高橋厚吉、熊谷弘志、佐藤智之、山本忠博、主濱泰晴、宮原博光、大坪聖子

### ▼根岸流手裏剣術

早坂義文、池永泰雄、バーバー出人、譜久原朝彰、渡辺浩、伊藤貴徳、土田和行、小國英智

## 演武（第二部）

第二部は、円心流居合拵物斬剣法の演武で開始した。演武の最後には演武者全員での「拵物斬」を行い、竹や巻藁を見事に一刀両断した。

風傳流槍術の演武では、一丈二尺（約3・63m）・十六角の素槍を用いた形が披露された。演武者の身長を優に超える長物による妙技に、観客は息を呑んだ。

演武納めは森重流砲術が務めた。初めに青木孝代表師範が神前、貴人



楊心流薙刀術



伯耆流居合術



柳生心眼流甲冑兵法

の前などで行う礼射「居放」の演武を行った。それまで静謐な空気が満ちていた大道場に、突如発砲音が響き渡ると、会場からどよめきが起こった。その後、青木代表師範の号令に合わせて、演武者全員が防御射撃を行う「備打」を行い、演武を締め括った。

最後に、内田康介日本古武道協会理事・事務局長が閉会を宣言し、大会が終了した。



大東流合気柔術





氣樂流柔術



柳生新陰流兵法剣術



田宮流居合術



天神真楊流柔術



琉球王家秘伝本部御殿手



北辰一刀流剣術



無比無敵流杖術



風傳流槍術



荒木流拳法



天然理心流剣術



本體楊心流柔術



森重流砲術



演武者名簿 (第二部)

▼円心流居合拵物斬剣法

高槻幸雄、梅田こずえ、徳山和彦、  
山村行仁、川岸正三郎、松田純、  
北野光一、桐山衣代

▼楊心流薙刀術

小山宜子、内藤真由美、賀谷純、  
竹内梨奈、川原陽子、和泉実悠、  
高田のぞみ

▼柳生新陰流兵法剣術

柳生耕一、嚴信、柴田幸芳、鈴木泰  
充、寺田裕昭、星川宣禎、高山潤

▼伯耆流居合術

大窪敏明、原田欣和、井上優一郎

大田光俊、河野清弘

▼氣楽流柔術

飯島雅史、飯島幸、川島輝之、反  
町明大、大塚良太郎、船田清

▼柳生心眼流甲冑兵法

星國雄、古澤伸一、浅野篤、小原  
良太、伊藤正人

▼本體楊心流柔術

井上恭一、宗教、原賀洋、井上大豪、  
入江哲史、大賀唯至、西村博史

▼琉球王家秘伝本部御殿手

本部朝行、新崎文子、本部直樹、  
片山修、勝沼悠、石崎順二、島海  
真、本部朝豊、高橋健一郎、川田

▼無比無敵流杖術

根本憲一、唯之、村木浩治、谷啓二、  
沢幡伸男

▼北辰一刀流剣術

高山陽好、上田忠夫、田中栄治、  
吉田信二

▼天神真楊流柔術

柴田孝一、柴田俊充、明石慶太、  
松浦富士雄、鷲尾勉、有沢誠、古  
田喜教、阿部岳春、今野賢太、中  
村丈二、阿部智恵、中野綾香

▼荒木流拳法

菊池京一、西川二郎、細野桂一、  
鈴木荒一、鈴木崇史

竜也、竹ノ内満、下地修、鶴蒔浩  
太郎

▼風傳流槍術

渡邊桂一、妻夫木亮

▼大東流合気柔術

近藤昌之、白山秀透、河野純一、  
滝口太士、味岡功磨、藤原雅樹、  
香山由紀子

▼田宮流居合術

妻木達夫、小野信義、石川定、清  
水新也、吉池映治、三宅文正

▼天然理心流剣術

平井正人、時田由紀、常田貞行、  
小林恵子、松本賢司、須田英宏、  
大泉雄都

▼森重流砲術

青木孝、角替進、片山直巳、石井  
和己、市川恵一、佐野翔平、小林  
透、芦川正彦

好評発売中!

小山 正辰 和田 光二 嘉手苺 徹 著

# 空手道

その歴史と技法

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、共同執筆で紐解く。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



四六判・上製・568頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158  
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



# 設立45周年を祝し、 古武道のさらなる発展を願う

日本古武道協会設立45周年記念式典・祝賀会

標記の記念式典・祝賀会が2月3日、ホテルメトロポリタンエドモント（東京・飯田橋）で開催された。記念式典には、来賓、同協会役員、古武道関係者など200名以上が参加した。

日本古武道協会は昭和54（1979）年2月17日、古武道を我が国固有の文化財として保存、振興することを目的に、日本全国の古武道関係者が大同団結し、日本武道館の提唱によって古武道の中央機関として設立された。

記念式典・祝賀会は、内田康介日本古武道協会理事・事務局長が開会を宣言して始まった。国歌斉唱の後、高村正彦日本古武道協会会長・日本武道館会長が主催者挨拶を行った。

「現在、古武道は国内はもとより、海外においても愛好者が増えており、喜ばしい限りでございます。

また令和2年度に天真正伝香取神道流剣術、令和5年度に小笠原流弓馬術が、我が国の文化の振興に貢献した団体として、文化庁長官表彰を受けたことはまことに意義深いことであります。

これからも古武道のさらなる保存伝承のため、各流派の皆様方にもなお一層のお力添えをお願い申し上げますとともに、古武道が広く国内外に正しく理解され、発展していくことを心から祈念いたします」

続いて、川端達夫日本古武道協会理事長・日本武道館理事長が主催者として「日本の古武道は日本の歴史の中で、とりわけ精神の拠り所とし





鏡開き



高村正彦会長の主催者挨拶



山谷えり子 参議院議員  
武道議員連盟副会長



川端達夫 日本古武道協合理事長  
日本武道館理事長



高村正彦 日本古武道協会会長  
日本武道館会長

て日本人の心の形成に重要な役割を果たしてまいりました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症によりさまざまな規制、制約がありました。各流派の皆様方は、創意工夫の取り組みで難局を乗り越切り、本格的に活動再開を迎えること

ができました。改めて今日までのご努力に深く感謝の意を表します」と挨拶を述べた。

次に、来賓祝辞として山谷えり子参議院議員・武道議員連盟副会長が「古武道は千数百年の歴史を持つ、武道の源流であり、未来に継承すべき尊いものだと思っております。

私は武道議員連盟副会長を務める中で、古武道の価値を重要視しており、文化財保護法にしっかりと名称を明記し、古武道を文化財とするべく、日々務めております。古武道がこれからますます発展し、50周年、100周年を迎えられることを願っております」と述べ、さらなる古武道の発展を祈念した。

その後、壇上に酒樽さかだるが運ばれ鏡開きへと移った。高村会長、川端理事長、山谷議員の3名が、掛け声とともに木槌きづちで勢いよく酒樽を抜くと、会場は大きな拍手に包まれた。その後、樽酒が参加者に振る舞われ、片岡正徳日本武道館事務次長の発声で乾杯が行われた。

参加者は飲食を楽しみながら流派の垣根を越えて歓談し、45年の時に想いを馳せた。

# 45周年の節目を慶び祝う



歓談する梶塚靖司柳生心眼流體術十一世宗家（左から二人目）、早坂義文根岸流手裏剣術第七代宗家（中央）、早坂ゆかり金硬流唐手・沖縄古武術代表幹事（右端）



竹内流柔術腰廻小具足相伝家一族。中央右が竹内藤十郎相伝家十三代目



談笑する柳生耕一巖信柳生新陰流兵法剣術第二十二世宗家（左）、加藤紘立身流兵法第二十二代宗家（中央）、吉川常隆鹿島新當流剣術第六十五代宗家

## 日本古武道協会の歩み

年	西暦	月日	日本古武道協会のおきな出来事
昭和53年	(1978)	2月19日	第1回全日本古武道演武大会を日本武道館で開催。46流派が 出場。
昭和54年	(1979)	2月17日	日本武道館の提唱により、古武道の中央統括機関として「日本古武道協会」が発足。
昭和57年	(1982)	3月24日 31日	フランス柔道・武道連盟の招へいにより、日本武道館と共催で初の古武道海外演武大会をフランス・パリで実施。古武道8流派が演武を披露。
昭和59年	(1984)	5月	この年から平成11年(1999)にかけて、古武道の保存と発展に多大な貢献をした個人を「古武道功労者」として表彰。
平成2年	(1990)	11月25日	第1回日本古武道術技向上演武大会を広島県・厳島神社で開催。古武道15流派が出演。
平成12年	(2000)	12月25日	月刊「武道」に長期連載され多くの読者から好評を得た「日本の古武道」を刊行。
平成21年	(2009)	2月7日	日本古武道協会は設立30周年を迎え、来賓、各流派宗家など関係者320名が出席し、記念式典・祝賀会が行われた。また、30周年記念誌「日本古武道協会三十年の歩み」を刊行。
平成22年	(2010)	8月、10月	日本古武道協会ホームページを開設。
平成23年	(2011)	2月6日	平成22年度の地方青少年武道錬成大会から古武道模範演武披露会を行う。以降、現在まで継続。
		10月2日・3日	「厳島神社奉納演武大会」に代わり、「第1回鹿島神社奉納日本古武道交流演武大会」を、武神を祀る茨城県・鹿島神社にて開催。本事業は毎年10月第1日曜日に継続実施している。
			新たに「古武道功労者表彰規程」を制定。第1回の古武道功労者は、笹森建美小野派一刀流剣術第十七代宗家、竹内藤十郎竹内流柔術腰廻小具足相伝家十三代目の両氏が受章。



記念撮影（二組目）



記念撮影（一組目）





直心影流薙刀術一同



乾杯の様子



高橋厚吉諸賞流和宗家と門弟たち



井上恭一宗教本體楊心流柔術第十九代宗家（右端）と門下生たち



関口高明無雙直傳英信流居合術第廿一代宗家と門下生



長沼悟詮溝口派一刀流剣術代表（中央）と長尾進古武道協会常任理事（右）



天真正伝香取神道流剣術が古武道流派として初の文化庁長官表彰を受章（2020年）



日本古武道演武大会を世界へライブ配信（2022年）



小笠原流弓馬術が古武道2流派目の文化庁長官表彰を受章（2023年）

令和6年 (2024)	令和5年 (2023)	令和4年 (2022)	令和3年 (2021)	令和2年 (2020)	令和元年 (2019)	平成31年 (2019)
2月3日	12月19日	7月、10月	2月6日	2月	12月17日	6月1日
日本古武道協会は設立45周年を迎え、記念式典・祝賀会をホテルメトロポリタンエンドモントで開催。	令和5年度の地域社会武道指導者研修会から古武道模範演武披露会を行う。	令和5年度文化庁長官表彰にて、小笠原流弓馬術が古武道2流派目となる表彰を受ける。	「日本古武道演武大会」を感染症拡大防止対策として無観客で開催。「YouTube」でライブ配信した。	第44回日本古武道演武大会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止。	令和2年度文化庁長官表彰にて、天真正伝香取神道流剣術が古武道流派として初の表彰を受ける。	設立40周年記念事業の一環として「日本古武道協会四十年史（DVD2巻付）」を刊行。
						高円宮妃久子殿下の臨席を賜り、日本古武道協会設立40周年記念式典・祝賀会をホテルメトロポリタンエンドモントで開催。



記念撮影（四組目）



記念撮影（三組目）

講道館 鏡開式

今こそ柔道で日本に元気と感動を



年頭挨拶を述べる  
上村春樹 講道館長

講道館の鏡開式が1月14日、寛仁親王妃信子殿下のご臨席を賜り、東京都文京区の講道館大道場で行われた。今年は新型コロナウイルス感染症による制限を設けず、約500名の柔道関係者が参加して実施された。

鏡開式に先立ち、令和6年能登半島地震で被災された方々に黙祷が捧げられた。

式は午前10時に開会し、初めに福島美智男九段が講道館員代表賀詞を述べた。

次に、上村春樹講道館長が年頭挨拶で、「コロナ禍が明けてようやく平穏な新年を迎えられると思っていました。元日には能登半島を中心

とした地震、1月2日には羽田空港で航空機事故が起こり、心の痛む年明けとなってしまいました。しかし、こんな時だからこそ、私たちが社会に元気や感動をお送りしなければならぬと思っています。今年も柔道界は、盛り沢山の大会・行事を予定しております。私たちは柔道を正しく普及・振興するために、嘉納治五郎師範が残した遺訓を胸に、柔道を国内外に正しく普及・振興してまいります」と述べた。

その後、7種の形の演技が披露された。形の演技終了後は、全日本強化選手・コーチと修行生との乱取稽古が少年部・成年部に分けて実施され、各部4名ずつの強化選手と多くの修行生がともに汗を流した。

昇段発表証書授与では、上村館長が各段位昇段者の代表に証書を授与。最後に、中島政司八段の発声で万歳三唱をして式は終了した。

■形演技者

- ◆ 投の形Ⅱ取・南保徳双七段、受・岩永憲門五段
- ◆ 固の形Ⅱ取・中山智史五段、受・林聖治五段
- ◆ 極の形Ⅱ取・道場良久八段、受・向井幹博七段
- ◆ 柔の形Ⅱ取・菅琳華女子三段、受・川原輝子女子参段
- ◆ 講道館護身術Ⅱ取・青井大剛六段、受・有川勇貴六段
- ◆ 五の形Ⅱ取・眞喜志慶治七段、受・大辻広文七段
- ◆ 古式の形Ⅱ取・鮫島元成八段、受・森脇保彦八段



形の演技「講道館護身術」



中島政司八段による万歳三唱



乱取稽古に参加したウルフ・アロン選手





# 少林寺拳法グループ 2024年新春行事

## 1秒1秒を必死に、懸命に



年頭挨拶をする宗昂馬代表

1月14日、香川県多度津町にある金剛禅総本山少林寺にて少林寺拳法グループの新春行事が行われた。本行事には日本各地から約900名が参列し、コロナ禍を経て久しぶりの大きな催し物となった。

行事冒頭では、令和6年能登半島地震により犠牲になられたすべての方に対し、参列者全員で、謹んで黙禱<sup>もくたう</sup>を捧げた。

その後、グループ代表を務める宗昂馬（一財）少林寺拳法連盟会長）が年頭の挨拶を述べ、「皆さん、8万6400秒……これは何の数字かわかりますか。これは1日を秒<sup>び</sup>で換算した数字です。1日は8万6400秒もあり、1秒1秒を無駄に

過ごすのか、それとも1秒1秒をしつかり使い切るのか。必死に生きる、懸命に生きることを考えてほしいです」と参列者に呼びかけた。

その後行われた新春修練会は、少年部約150名、中学生以上の一般部約300名がそれぞれの道場に分かれて実施された。

少年部では、講師の連盟職員より「少林寺拳法は護身術でもある。護身術の修練でケガをしたら元も子もない。少林寺拳法の拳士であるならば、常に目配り、気配り、心配りを大切にしよう。そして仲間を大切に、今年一年も精いっぱい頑張ろう！」と訓示した。

一般部においても、気合が入った修練が行われ、宗代表も道衣姿で参加し、時折指導をするなどしてともに汗を流した。

最後には、講師を務めた井上弘（一財）少林寺拳法連盟理事）が、これからの少林寺拳法を盛り立てていく若い世代のために、熱意をもって

少林寺拳法の掲げる幸福運動に邁進<sup>まいしん</sup>しようではありませんか。少林寺拳法の理念を信じて集った仲間がたくさんいます。皆で一丸となって前へ進んでいきましょう！」と呼びかけると会場は拍手喝采で沸いた。

修練の後は、境内で新春のつどいが催され、オープニングでは、地元が多度津高校書道部による書道パフォーマンスや、多度津京極少林寺拳法の太鼓演奏と演武が盛大に行われた。同つどいでは飲み物や軽食がふるまわれ、各々歓談の時間を過ごし、新春行事は盛況のうちに終えた。

（文・写真Ⅱ 一般財団法人 少林寺拳法連盟）



修練会にて、宗代表による指導



新春修練会（一般部）



新春修練会（少年部）

合気会 鏡開き式

常に前向きに、日々、稽古に精進



年頭挨拶を述べる  
植芝守中央合気道道主



植芝道主の奉納演武



植芝本部道場長が奉納演武を披露した

合気会の本部道場鏡開き式は1月14日、東京都新宿区の本部道場で開催された。今年の鏡開き式は、4年ぶりに人数制限などを設けずに開催され、約550名の合気道関係者が参加し、直会なまらいも行われた。

鏡開き式に先立ち、令和6年能登半島地震の被災者に対して、黙禱もくごうが捧げられた。

式は午後2時から開催。初めに植芝守中央道主が年頭の挨拶に立ち、令

和6年能登半島地震で亡くられた方にお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

4年ぶりに新年の行事を何の制限

もなく、多くの方々と開催できることを大変嬉しく思っています。こうした行事ができるのも、コロナ禍で多くの方が大変だった中でも常に前向きに、信念をもって歩まれた人たちによって、今日を迎えられたと思います。私どもは開祖の創始された合気道を正しく承継し、社会が少しでも豊かになるために精進しなくてはなりません。私たちができるところは、合気道を日々しっかりと稽古し、開祖の気持ちに少しでも近づこうとすることです。今年一年もしっかりと稽古に精進して、前に向かって進んでまいりたいと思います」と述べた。次に山谷えり子参議院議員が来賓祝辞を述べた。

続いて植芝道主と植芝充央みつひら本部道場長による奉納演武が披露された。奉納演武終了後、推薦昇段者の発表と証書授与式が行われ、植芝道主より証書が授与された。

その後、4年ぶりとなる直会が開

催。直会では多田宏本部師範が挨拶。その後、赤沼三男合気会理事が乾杯を行った。参加者たちは和やかな雰囲気の中、交流を深めた。



4年ぶりに直会が開催された

